

国民学校新聞

令和二年
一月二十八日
中川カ仁

国民学校の様子

ぼくは、国民学校の様子は、どうだったかを知りたかったので、調べることにしました。

明治四年に、油久小学校が、開校しました。その後、油久尋常小學校になりました。また、昭和十五年には、油久尋常高等小學校になり、太平洋戦争が始まる前、油久国民小學校になりました。国民学校では、皇道精神のもと、立派皇國の民になろうとしました。教科は四つに統合され、國民科、理科、体練科、芸能科がありました。教科書は、内容・図絵も軍事関係を多用しました。授業では、皇國民としての意識を高めることが第一であり、学校に軍人が来るなど校長先生よりも強い権限で軍事教練が組まれました。

油久の様子

授業は、「天皇・軍国」中心で、男児は、軍人にあこがれました。防空壕掘、防空壕避難訓練軍歌中心の音楽の授業「皇國に命をささげる」話、「軍人にあこがれる」話「鬼畜米英を打ち倒せ」の竹槍訓練、立ち木打ち賛沢をさせないための弁当検査などがありました。

町郷土史

十九年から校舎は警備軍の兵舎となり授業より戦争優先になりました。作文は「慰問文」、体育は「体育錬磨」竹槍操法訓練、木刀訓練、立ち木打ち出征兵見送り、戦死者出迎え葬儀戦勝祈願のあらゆる祭典への参列日曜早朝の部落健児団行事（鉢巻の隊列で部落をかけ廻り、神社掃除・立ち木打ち）「青少年学徒食糧増産運動」で出征兵士宅への勤労奉仕がありすべてが「挙国一致」のもとに行われました。

感想

ぼくは、油久小の昔の様子を初めて知りました。油久小でも、戦争に備えて訓練が行われていたことを知りました。まだ、油久小には、昔の事でもくの知らないことがあるかもしれないと思いました。後この新聞をかいていて、昔の字（漢字）も知ることができ、いい機会だったなと思いました。



油久小学校